

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。
暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を
込めて撮影している。



前本武子さんは、多良間島から竹富島にお嫁に来て、沢山の苦勞と喜びを体験して来た島人だ。

武子さんは、7人の子どもたちを育て、時折遊びに来るその孫たちや夫の隆一さんを訪ねてくる大勢の来客の面倒も丸ごと引き受けてきた肝のすわった強い人。そんな性格から島人は武子さんのことを「武子母ちゃん」と親しみと敬意を込めて呼んでいる。

私たち家族にとっても竹富島に移り住んだ頃からずっとお世話になってきた島人の中の一人だ。私がまだ島に来たばかりの頃、お祭りの時に着物の着付けが一人でできず、半べそをかきながら帯を片手に「武子母ちゃん、着物着せて！」と走って行ったこともあった。

野菜が採れたらもらいにおいでと声をかけてくれたり、娘が生まれてからは、手編みのスカーフをプレゼントしてくれたり沢山可愛がってもらってきた。とにかく常に手を動かしている人で、いつ遊びに行っても何かしらの手作業をしている。

私が武子さんと過ごした忘れられない一番のエピソードは、天気の良い昼下がりに、島ピン（島ニンク）と竹ざるを持って畑へ行き、剥いた皮をザルをふって風に飛ばす作業と一緒にしたことだ。何でもない日常の一コマだったのに、今でもはっきりと覚えている。

風を読み、ゆっくりとザルを振る。光を通す島ピンの薄い皮がハラハラと風に舞い飛び、それはとても美しかった。

彼女に会うと、別れ際に、「はい、負けるなよ。頑張れ」とよく声をかけられる。その声には、「同士よ。お互いに頑張ろう」という心意気みたいなものを感じる。

水野暁子 みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介している YouTube チャンネル「八重山ライブラリー」も。